

つちかべぬ 土壁塗りの手順

《北区旧松澤家住宅の場合》

土壁塗りは左官職人が受け持ちます。^{さかん}（左官職人は、土をたたきしめてドマを造る作業やカマド造りも行います。）
旧松澤家住宅の壁は、粘り気のある荒木田土に、^{あらきだ}藁スサ^{わら}を混ぜて寝かせた壁土を塗って造られています。壁塗りは、柱の間に下地をつくることから始めます。下地は割り竹を縄や紐で結んで格子状に組み合わせます。^{たけこまい}これを竹小舞^{こまい}といいます。下地ができたら、壁土を^{こて}鏝で塗っていきます。壁の表裏両方を塗り終え、乾燥させたのち、その上からもう一度塗り重ねます。この上からさらに漆喰^{しっくい}を塗ることもありますが、旧松澤家住宅では、2回塗ったところで仕上げとしています。



1 荒木田土に藁スサを混ぜた壁土



2 割り竹を格子状に結びつける（小舞搔き）^{こまいか}



3 一層目を塗る（荒壁つけ）^{あらかべ}



4 反対側を塗る（裏返し）^{うらがえ}



5 二層目を塗る（中塗り）^{なかぬ}



6 完成した土壁